

森泰吉郎記念研究振興基金 2015 年度成果報告書

政策・メディア研究科 修士課程 2 年 森将輝

1. 研究タイトル

視線知覚について実物または写真の提示刺激による差異

2. 研究概要

本研究は、提示刺激が実物と写真では視線知覚にどのような差異があるのかについて、知覚心理学的研究を行う。学生 30 名にモニターまで 4 m の距離において (a) 実際の人物、または、(b; c) 実物大の顔写真（高画質・低画質）を観察させ、その人物が注視する床上の地点を推測してもらい、その地点を床上の記号から選択させる。(a), (b), (c) で判断した空間について、それぞれアフィン変換を用いて座標軸の拡大率や原点移動を推定する。申請者のこれまでの研究で、顔写真を用いて実験した時、奥行距離の過小視を指摘している (Mori & Watanabe, 2015)。本研究により、この傾向が実物と写真の違いが及ぼす影響なのか、写真の画質が及ぼす影響であるのか明らかになる。

3. 研究結果

本研究は、計画の進行がやや遅れている。その理由として、実験の用いる眼球領域が制御可能な 3 D の人物模型の作成が予想以上に技術的にかなり高度であったことが挙げられる。ただし、多くの学会に参加する中で、本研究をテーマとしていながら、未発表の研究データを持っている研究者と出会い、貴重な情報を得られた。その内容については、未発表であるため割愛させていただく。申請者は、博士課程進学後も、同様の研究領域、研究室にて研究を継続予定であるため、引き続き同テーマを継続したいと考えている。また、視線知覚が観察距離に及ぼす影響において、重要かつ新規性のある知見も得られており、以下の学会と研究会の一部で発表を行った。

2015 年 3 月に大分で行われた第 48 回知覚コロキウムでの口頭発表を行った。

2015 年 8 月にイギリスのリバプールで行われた European Conference on Visual Perception 2015 でのポスター発表（査読有り）を行った。

2015 年 9 月に名古屋で行われた日本心理学会第 79 回大会にてポスター発表を行った。

2015 年 11 月に六本木で行われた慶應義塾大学 SFC Open Research Forum 2015 でのポスター発表と、作成したビデオによるデモンストレーションを行った。

4. 今後の展望

現在、査読付きの原著論文にむけ、執筆中である。